

会 議 録		令和 4 年12月16日作成	令和 8 年 3 月末日廃棄
会議名	京都府木津警察署協議会（令和 4 年度第 3 回）		
開催日	令和 4 年12月14日（水曜日）		
時 間	午後 4 時から午後 5 時30分までの間（90分）		
場 所	京都府木津警察署 講堂		
出席者	奥会長、光橋副会長、小林委員、柴田委員、森本委員、岸田委員 浦本委員、矢島委員、有馬委員、宮本委員、岩木委員 計11人		
	署長、副署長、会計課長、警務課長、生活安全課長、地域課長、刑事課長 交通課長、警備課長、広聴・相談係長 計10人		
諮 問 事 項	人身危機事案対策について		
会 議 内 容	1 会長挨拶 司会 副署長 2 署長挨拶 3 京都府警察署協議会会長会議報告～会長 4 協議 司会 会長		
	諮問事項説明 人身危機事案対策について～生活安全課長 (1) 令和 4 年中の人身危機事案の発生状況と対策について (2) みまもりあいアプリについて 【委員】 先ほどの資料にあったAirTagについて、分からない方がいらっしゃると思うが、これが現物であり、私は財布や鍵に入れている。紛失しても、アップル社の携帯を持っていれば、AirTagの近くを通ると発信された電波でどこにあるか知らせてくれる。 私は取り付けるのではなく、財布に入れて、息子にも 1 個渡し、管理させている。これを入れていると iPhone が鳴る仕組みになっているが、音がすごく小さい。車に取り付けられても、自分の車に取り付けられているか分からない。このような小さな物が、犯罪に使われているということで紹介させてもらった。これは磁石式ではなく、テープで取り付けられていると思う。		

会 議
内 容

【委員】今、紹介があったツールについてはICT（情報通信技術）化が進んだ中、使用されていても発見するのが難しいことと、これからますます悪用されることが増えると思われる。先ほど会長が報告された会長会議の資料の中にネットトラブルの対策について、必要があれば相談できるということであるが、AirTagを含めて木津署で対策できる部署はあるのか。あるいは、本部だけであるのか。

【警察】会長が話された部署は、サイバー犯罪対策課の中にあり、そこが専門的に啓発や普及促進などを行っている。各種会議や警察署協議会の中で、派遣要請があれば、出張講演を行っている。

当署の生活安全課の中に、そのような知識がある者がいるのかということについては、生活安全課長はサイバー特別捜査官であるが、サイバー犯罪については日進月歩であり、今、まさに取組を行っている部署が今起こっている事象を説明に行くというパターンで実施している。もし、興味があれば、例えば、次回の警察署協議会で実施するのも可能である。皆様が住んでいる地域で、小さな会議では無理であるが、何か大きな会議の中で、実施してほしいとの希望があれば、当署が仲介することは可能である。担当部署でも講演の場を求めており、できるだけ広く講演し、皆様方に理解をしてもらいたい。質問の趣旨として、そのような組織があるのかということであれば本部である。

【委員】今後、サイバー犯罪が増加するであろうし、知識を持っていれば対応できることから、知識を広めるためには講演も必要である。どのような窓口があるか質問させてもらった。

【委員】高齢者虐待、児童虐待などは、シビアな問題も多く、署員の皆さんは苦勞していると思う。年末年始は役所が休みの時期もあり、警察の皆さんに迷惑を掛けると思うがよろしくお願ひしたい。以前、役所に勤務していた時には、木津署にお世話になり、フランクにお付き合いさせてもらった。子どもや高齢者が多い行政は、府下では木津川市しかないと思われる。署員一人当たりの負担率も大きいですが、今後ともよろしくお願ひしたい。

【委員】母親が子どもを溺死させた事件があったが、その際、マスコミがその地域の民生児童委員に取材した。

しかし、地元の民生児童委員は、当該事件の児童虐待を認知していなかった。山城町では旧来から地縁、血縁があり、ほとんどの地域のことは分かっているが、当該事件のように当事者が孤立していた件については、把握できていなかった。今後、どう対処すればよいか課題であるが、民生児童委員など関係機関は、横の情報共有を図る必要がある。

会 議
内 容

また、別件であるが、木津署では大型商業施設で見える形のパトロールをしてもらっている。これは、啓発や防犯面で非常に効果的であると思う。これに加えて、パトカーやバイクによるパトロールをもっと行ってもらいたい。山城町内は道が狭いが、できる限り、見える化を実施してもらいたい。

【委員】 児童虐待の関係であるが、私は更生保護女性会に入会しており、いつも児童虐待が問題となっている。木津川市では児童虐待がないと思っていたが、多く発生していると聞き、驚いた。児童虐待などを対応した後、警察はどうしているのか。

【警察】 児童虐待事案は、府下全域で多く発生している。例えば、両親だけで第三者の目撃がない時に、子どもが転倒して怪我をした場合、両親の加害が排除できなければ、警察は児童相談所に通告する。

これは両親が結託、または第三者が自損転倒を説明できない場合、事件性を証明できない可能性があるからである。通告に関しては、警察と厚生労働省で申し合わせがあった。私が少年課長をしていた時から児童相談所への通告が増えている状況にある。警察が認知したもの、証明できないもの以外にも、一番多いのは、心理的虐待で、DV事案に絡み、子どもが見ている前で夫婦喧嘩をしても心理的虐待になり、これも通告する。通告した後、警察は、アフターケアとして児童相談所と連絡を取り合い対応している。夫婦喧嘩などの事案の通報もあるが、警察はすべての事案に対し、慎重に対応している。一人も被害者を出さない、かわいそうな子どもを絶対出さない、子どもの命と安全を守り切るということを言い続けてきた。子どもには絶対、罪はない。

先ほど、質問があった「木津3S（相楽セーフティーセキュリティー）プロジェクト」であるが、木津署管内は繁華街がなく、大型商業施設が繁華街的に利用されており、ベットタウン地域である。大型商業施設は、振り込め詐欺の振込先や非行少年が集まる場所でもあるため、7箇所の大型商業施設の管理者と協議し、警察として必要性を考え、商業施設内の巡回を行い、警戒を行っている。この取組は永続的に行うのではなく、効果や地域の方等の意見も考慮し、6月1日から開始したが、統計上、万引きは減少し、少年補導は昨年の倍以上増加した。

昨年までは、商業施設内に入らなかったことにより、できなかった少年補導が行え、ATM機の振込みも声掛けができるようになった。住民の方からは、「警察官がいてくれて安心である。」との声が上がっている。この取組はいつまで行えるか分からないが、今回の施策は、的を得たと思う。

会 議
内 容

管内ではパトカーなど、赤色灯が点灯できる車両は全て点灯させて走行し、工夫を凝らして「木津3Sプロジェクト」を実施している。

【委員】人身危機事案の中で、虐待の件数が多いと説明を受けたが、民生児童委員の話でもあったが、虐待は隠されることで、なかなか表に出てこない。私が住む地域でも民生委員が家庭に入るのを拒まれるということが最近多くなったように感じる。私は教育委員会にいるが、子どもの児童虐待に心を痛めている。

コロナ禍で不登校の子どもが増え、不登校の子どもが家庭でどうしているか非常に心配している。学校現場では、虐待の疑いを見つけるのは、毎日同じ服装であるとか、衛生状況がよくないなど、細心の注意を払いながら、糸口を探している。最近、ヤングケアラーなどが話題になるが、虐待など、家庭で生活している中で何かきっかけを見つけ、学校、民生児童委員などがいかに早く虐待など見つける取組が大事であると思う。しかし、そのことが一番難しいところであると思う。そういう意味ではあらゆる方法を使いながら、早く見つけて、重大な事案、悲しい結果につながらないような対応をする必要がある。

【委員】先ほどから民生児童委員の話題が出ているが、私も最近まで民生児童委員を務めていた。特に小さな子どもの虐待であるが、民生児童委員も、どこで子どもを出産されたかあるいはどこにいるか全く分からない。以前は、65歳以上の高齢者がどこにいるか行政から情報提供があったが、今は、個人情報保護の関係から全く分からない。では、どのようにするかと言えば、例えば、主任児童委員が、新生児検診に行き、どこで子どもが生まれたかを自分で情報を集めるということをしなければ分からない。しかし、検診の場にも入れない場合もあり、笠置町の場合であればいずれ分かることもあるが、木津川市や精華町など新しく住宅地が開発されれば、全く分からない。個人情報保護のマイナス面として民生児童委員の活動にも限界があり、活動しずらく、民生児童委員も悩んでいる状況であり、民生児童委員の活動もご理解いただきたい。

以前も特殊詐欺被害防止についてはお願いしたが、PRには僧侶に協力してもらい、今月、「寺だより」を発行するため、笠置駐在所には、啓発チラシがあれば、200部依頼している。特に、東部3町村に高齢者が多いことから、お参りの時に発信物を配布するのであれば、高齢者向けのものであれば効果的であると思う。もし、各交番からお寺に声掛けができれば、協力が得られると思う。

交番だよりの件については、改善していただいたが、もう少し、交番の独自性の部分を出していただきたい。その方が、交番員が住民に

話をするきっかけになると思うので考慮願いたい。

【委員】私も11月末まで民生児童委員を務めていた。各家庭の様子が分かりにくく、ある方は主人からDVを受け、子どもと別居し、母子の奨学金の証明に来られる方もいる。やはり、児童虐待が一番、心が痛む。ものが言えない子どもがづらい目に遭っていることは、近所の家庭から児童相談所に通報しなければ、子どもの命が奪われると痛感している。中学校の下校の見守りに出ても分からないが、今、生活困窮家庭が増えているみたいで、ソーシャルワーカーが介入している。生活困窮から虐待に至っているのではないかと思う。いち早く児童相談所に通報するということが、子どもの命を守ることになる。住民一人一人が心掛けて、住みよい木津川市になればよいと思う。

【委員】最近、木津川市内を見れば、外国人の方が増えている印象がある。先ほどの説明でも、外国人の方の事例もあった。先日、国道24号で信号待ちをしていたところ、車が走行しているにもかかわらず、外国人の方が集団で赤信号を横断しているところを見掛けた。木津川市でも外国人の方の人口が増えており、人身危機事案や交通問題を外国人の方にレクチャーする場を木津署として考えているかお聞きしたい。

【警察】今日の京都新聞朝刊の山城版に掲載されていたが、昨年、数百人単位で外国人の方が木津川市内の大きな工場で勤務している。警察として認知しており、技能実習生として勉強のために、正規の手続きを踏んで入って来ているが、当然、日本の文化も分からないし、日本としても温かく迎え、この地になじんでいただけるように、交通マナーや生活のルールなどを教えていく必要がある。各種ルールを警察だけでなく、行政等と連携して各種講習を行ったところ、本日の新聞に掲載された。なかなか1回の講習ではすべて理解をしてもらえないが、その時の対応としては、非常に喜んでもらい、効果的であったと思う。

京都新聞山城版だけでなく市内版でも掲載されており、大々的に捉えてもらったと思う。今後、ますます外国人の方が増加することが考えられ、この取組は挙署一体となって全課で取り組むというスタンスで、このような取組を発展させていくべきであると考えている。

【委員】本日の人身危機事案について、知人がストーカー被害に遭い、その時も警察に相談し、すぐに接近禁止措置を取ってもらったが、結局、家族全員でどこかに引っ越しされた。執拗なストーカーはどこまで来るか分からないので、非常に怖い。児童虐待についても一見して分からない家庭内で行われている。やはり近隣で少しの変化を気付けるようになればよいと思う。

会 議
内 容

会 議
内 容

令和4年度第4回木津警察署協議会は、令和5年2月中に実施予定である。

以上

第3回京都府木津警察署協議会の開催状況

